共同研究の経緯と本特集の概要

渡　辺　　滋

本特集「周防国府をめぐる諸問題」は、二〇二〇年に行ったシンポジウム「都市「防府」の形成と周防国府の謎」の概略を文章化したものである。ただし、その背景には、山口県立大学と防府市の５年間にわたる共同研究「周防国府に関する包括的研究」(二〇一六～一八年度)・「都市「防府」の形成過程」(二〇一九～二〇年度)における研究成果がある。

この二つの共同研究は、山口県立大学の渡辺滋(日本史)・倉田研治(ＧＩＳ)と防府市教育委員会との共同研究に、外部から研究協力者として加藤友康(東京大学名誉教授)・舘野和己(奈良女子大学名誉教授)・佐藤信(東京大学名誉教授)・鐘江宏之(学習院大学教授)の四名が加わるという陣容で実施された。共同研究は、毎年の研究会・出土遺物検討会のほか、出雲国府(二〇一八年十一月)・讃岐国府(二〇一九年七月)などの関連史跡調査などもふくめ、精力的に進められた。

その成果は、二〇一九年三月三日の講演会「周防国府のあんなこと・こんなこと」(ルルサス防府)における佐々木達也「五〇年分の発掘調査から見えてきたもの」／倉田研治「マップデータからみえる発掘成果」／渡辺滋「周防国府と国司たち」といった講演を先懸に、二〇一九年一〇月一三日の講演会「ここまでわかった周防国府と佐波郡の役所」(デザインプラザＨＯＦＵ)における佐藤信「周防国府の実像」／共同研究者によるパネルディスカッションなど、積極的に情報発信されてきた。そして、五年間の研究成果の総決算として二〇二〇年一一月一日に行われたのが、シンポジウム「都市「防府」の形成と周防国府の謎」(防府市公会堂)である(ラインナップは以下の通り)。

渡辺滋「共同研究のこれまでと「国府」研究の概要」
羽鳥幸一「発掘調査と豊富の周辺環境からみた国府の成立と展開」
舘野和己「古代周防をめぐる交通」
佐藤信「周防国府の機能と施設」
鐘江宏之「周防国府における国雑任とその職務」
加藤友康「国府のなかの国司館」
渡辺滋「国司の赴任と家族」

防府市長・山口県立大学学長をはじめ、多数の市民の参加を得て、盛況のうちに終わったこのシンポジウムの内容を記録にとどめるのが、本特集の主眼である。

なお研究の最終段階で、研究グループのなかから「国府の機能を総体的に解明しようとする場合、中央政府側からの要求で設定された諸機能だけでなく、地方社会側から中央への働きかけが行われる際の役割にも注目する必要がある」という指摘が出された。つまり、中央社会―地方社会の間における双方向的な結節点としての「国府」の性格を重視すべきという提言である。シンポジウム実施の段階では十分な解答を用意できなかったが、最終的な研究成果によってこの点を分析するため、本特集における渡辺の論考はシンポジウムの際の論題とは変更し、「古代後期の周防国と中央政界」とした。

また当日のタイムスケジュールの問題からシンポジウムへの参加はかなわなかった共同研究者の倉田研治(山口県立大学)からも、本特集へ「ＧＩＳデータベースを利用した周防国府の景観復元」の寄稿を得た。一方、当初は防府市教育委員会からも複数の寄稿が予定されていたが、実現しなかったことは誠に残念であった。

複数の研究者の論考からなることもあって、史料解釈の差異も散見されこそすれ、そうした点も周防国府をめぐる多様な可能性を示す現象といってよい。今回、これらの諸論考が公表されることで、周防国府をめぐる関連研究は、一層本格化することと期待される。